

南アルプス 大井川倉沢

栗原

【日時】 2010年8月13日～15日

【メンバー】 田邊(一) L・大野・栗原

不安定な天気には飯豊の裏川から転進を余儀なくされ、ここなら、ということで倉沢に決定。行程は短い、そこは5級の沢。どんなゴルジュが待ち構えているやら。

8/13 登山者の朝は早く、畑薙からの臨時の始発のバスに乗り損ね、次のバスで樫島に向かう。登山者ののどかな出発風景の中、我々だけ違う方向に向かって出発する。

倉沢出合にかかる釣り橋までの登山道はしかし、取り付きからして発見できない。仕方なく沢の中を行くが、大井川本流は川幅いっぱいには広がっており、のどかなゴーロ歩きなど許してくれない。左岸をヘツリヘツリ行くと、小さいルンゼに梯子の残骸を発見した。登山道だ。ルンゼを上がり、登山道を少し行くと、今度は朽ちかけた釣り橋となる。横木は朽ちて落ちているため、手摺のワイヤーにビナを通してセルフを取りながら、ワイヤーの上の綱渡りとなった。が、やっと渡り



終えたその先で、足場が崩れており、ロープの残骸が揺れていた。フリーではとても渡れない。ということで、せっかく綱渡りをしたというのに、結局沢に下りることになった。私の脳裏には「取り付き敗退」の言葉が浮かぶ。

降り立った沢では、左岸側は通過困難で、右岸側に渡渉することになる。一人ではとても渡れず、スクラム渡渉だ。水量は多く、真剣な渡渉となった。渡った先でもすぐに通過困難となり、右岸側の高巻きとなる。高巻きから降り立って川原を少し歩くと、漸く倉沢の出合だ。出発から1時間20分、全く、アプローチからして5級の沢の感触を味わってしまった。



倉沢に入ると、程なくゴルジュAが始まった。ここは、楽しく通過。そしてゴルジュB。ここもほとんど中を突破し、通過できた。こんな感じなら楽しいなどと話しながら行くが、そんな訳があるはずない。それはゴルジュCから始まった。登れない6m滝を右のボロボロの岩場から田邊さんがザイルを引いて高巻く。フォローで続くが、触るそばから岩がぼろぼろと崩れ、悪い。最後、懸垂で沢に降りる。

その後も滝は続き、ゴルジュDでの高巻きでは、掴む所のないグズグズの斜面を田邊さんがバイルのダブルアックスで突破する。倉沢はゴルジュと言っても泳ぎでなく登攀系の沢と聞いていたが、やはりその通りのようだ。

漸くゴルジュDが終わり、ゴルジュEはお約束通りの高巻きとなるが、ここも一筋縄ではいかず、最後は岸壁にぶち当たり、やはりボロボロの岩場を登ることとなったのだった。途中から降りても再び登れない滝にぶち当たった場合の側壁の高巻きがひどく悪いので、そこからしばらくはおとなしく藪を漕ぐ。漸く沢がおとなしくなった頃、沢に降り立つと、そこはもう二俣だった。入るのは左俣の上倉



沢だが、左俣には泊り場所がなさそうなため、右俣（下倉沢）に入っすぐの所を天場とした。



8/14 天気予報は、午後からの天候の悪化を告げている。短い沢で良かった。核心は抜けているので、昼には登山道に抜けられるだろう。

そんな甘い考えでスタートするが、まだまだ滝は続き、やはり登れない滝の高巻きも続く。今日は大野さんがザイルを引いてリード。まだ悪いが、



昨日よりはそれでも大分ましになったようだ。大滝を越えしばらく行くと、豊富だった水が突如枯れる。そのすぐ先の左岸に、登山道を示す看板があった。ここで遡行終了、あとは登山道を下るだけだ。左岸に看板があるなら反対側の右岸にも登山道が続いているはず、と目を凝らすと、岩に赤ペンキが見える。安堵して、ここだあ、と踏み跡を行こうとするが、すぐに判然としなくなった。3人で右往左往しながら登山道を探すが、やはり判然としない。仕方なく獣道をたどるが、ルンゼにぶち当たり、終いには沢の高巻きみたいになってしまった。雨も降りだし、「これは、雨の中、山中ビバークか?!」と危機感を覚えるが、「絶対、上の方に道がある」という田邊さんの示唆の元、藪こぎで斜面を上がっていくと、果たして、しっかりした登山道にぶち当たった!これで雨のビバークを逃れ、大安堵、アプローチから下山まで、核心たっぶりの山行を思い出しながら、樫島までポクポクと下った。

8/15 樫島から畑薙までバスで移動し帰京。

【グレード】5級

【行程】8/13 樫島9:00～倉沢出合10:20～ゴルジュB出口11:35～二俣c1 17:20

8/14 c1 7:00～登山道出合12:00くらい～登山道発見13:00くらい～樫島17:00くらい

【地図】赤石岳・新倉

